

## 乳房温存術(部分切除術)の適応・方法・成績

乳房を部分的に切除し乳房の形を可能な限り温存する方法です。ここ数年で進歩し定着してきた治療方法です。切除の方法としては、円状に切除する方法や扇状に切除する方法があります。切除範囲は画像診断と臨床的所見を総合的に評価して、慎重に決定します。乳がんの乳腺内進展はきわめて多様です。癌の数だけ進展パターンがあるといっても過言ではありません。小さな癌でも乳腺の半分以上に進展している場合がありますし、触診で 3cm の癌でも乳腺内、特に乳管内への進展はわずかの場合があります。従って、ケースバイケースで過不足なく、癌の根治性と整容性の両方の側面からよく検討して、手術に臨むことが大切です。基本的には癌の進展先端部分から切除断端までの距離が 2mm 以上担保されることを目指しています。術中の迅速病理診断は状況に応じて行っています。

病理組織診断の結果、癌の残存が疑われる場合には、後日乳腺を追加で切除を行ったり、癌の進展状況によっては乳房切除を施行することになる場合もあります。

術後に残った乳房に放射線を当てることで乳房切除と同等の効果が得られます。したがって、放射線治療を施行することが困難な方(心・肺疾患の合併、放射線照射をすでに受けているなど)は、乳房部分切除の適応とはならない場合があります。また、多発乳がんの方や乳がんが乳頭直下に及んでいる方も慎重に適応を考慮することになります。

創については、通常は乳輪外縁に沿って半円状に切開を入れますのであまり目立ちません。しかし、術後の創傷治癒の過程で乳房の引きつれ・陥没などの変形あるいは乳頭の変形をきたすことはあります。創傷治癒は個人差があります。形成外科の専門家とも相談しながら、状況に適した対応がとれるようにしています。